

旅客船につぼん丸衝突(港内施設)事故について

本資料は、現時点において判明している事実情報を記したものであり、関係者の口述内容に関する情報は含まれていない。

1. 本船の要目

船種、船名	旅客船 につぼん丸
船籍港	東京
総トン数	22,472トン
長さ×幅×深さ	166.65×24.00×13.50 (m)
主機	ディーゼル機関2基 (出力7,686kW/基)
推進器	4翼可変ピッチプロペラ2個
サイドスラスト (船首)	1基 (電動)
最大搭載人員	船員224人、旅客576人 計800人
船舶所有者 (運航者)	商船三井客船株式会社
事故当時の乗船者	乗員乗客 計624人

2. 本事故当時の気象 (本船観測情報)

平成30年12月30日 20時00分 (グアム現地時間。以下同じ。)

天候 快晴、風向 北東、風力 5 (風速8.0m/s以上10.8m/s未満)

3. 本事故発生の概要

- ・ 本船は、平成30年12月30日21時05分ごろ、サイパン島に向け、グアム島アプラ港F-4岸壁を離岸し、後進を開始した。
- ・ 本船は、船首がF-4岸壁の西端に並んだころから、タグボートの支援を受けつつ左回頭 (反時計回りに船首の向きを変えること) を開始した。
- ・ 本船は、その後、左回頭しながら後進してD棧橋に接近し、21時14分ごろ、D棧橋ドルフィンに衝突した。

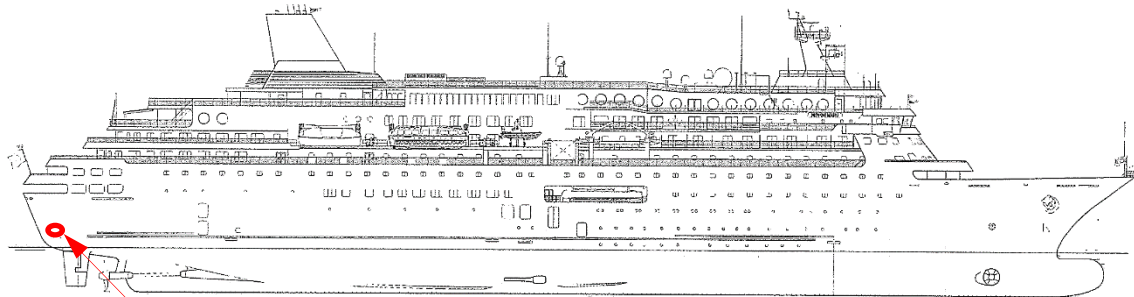
4. 人の死亡及び負傷に関する情報

本事故において、乗客及び乗組員に死傷者はいなかった。

5. 船舶の損傷に関する情報

本事故により、本船の右舷船尾部及び左舷船尾部に破口を生じた。

<破口の位置>



右舷船尾部の破口の位置（左舷船尾部の破口もほぼ同位置にある。）

<右舷船尾部の破口>



仮修理前の破口箇所の外観



ドック入渠時の船尾部の外観
(仮修理後)



仮修理後の破口箇所の内観

<左舷船尾部の破口>



ドック入渠時の船尾部の外観
(仮修理後)



仮修理後の破口箇所の内観

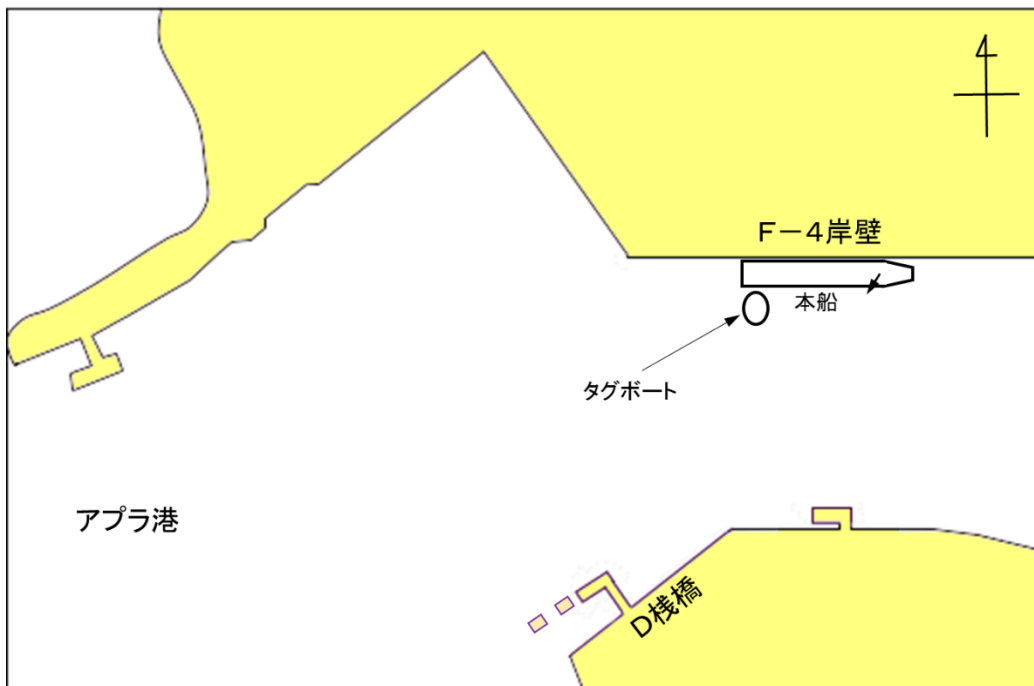
6. 施設の損傷に関する情報

D棧橋ドルフィン（係留施設）に破損を生じた。

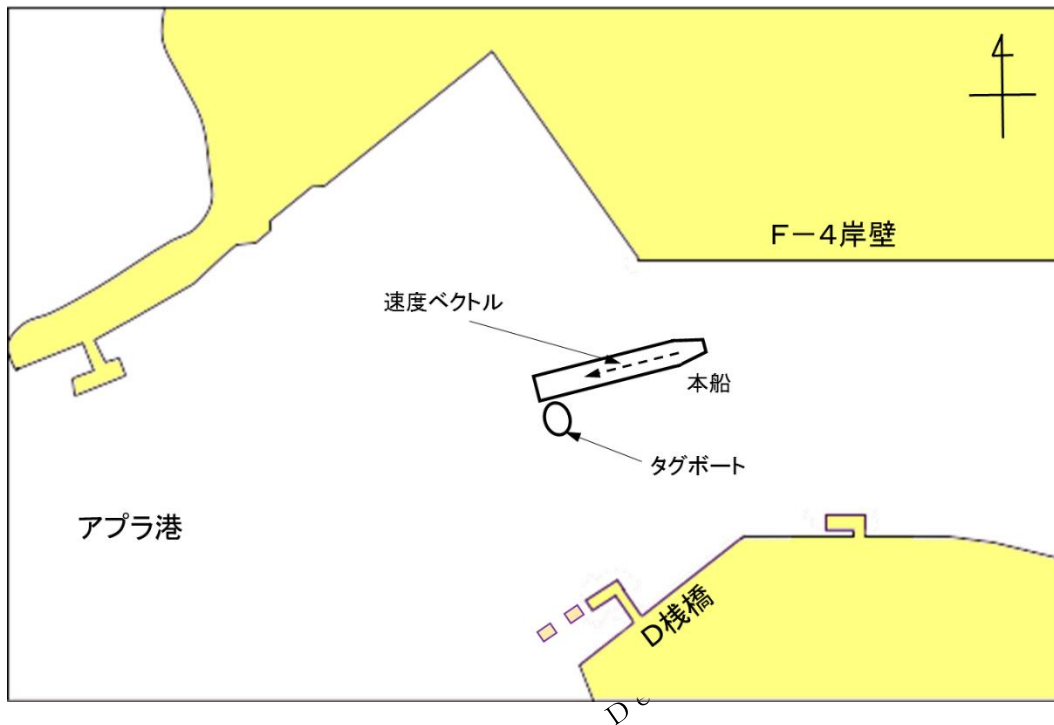
7. 離岸から衝突に至るまでの本船の動き

(航海情報記録装置 (VDR) の情報による。)

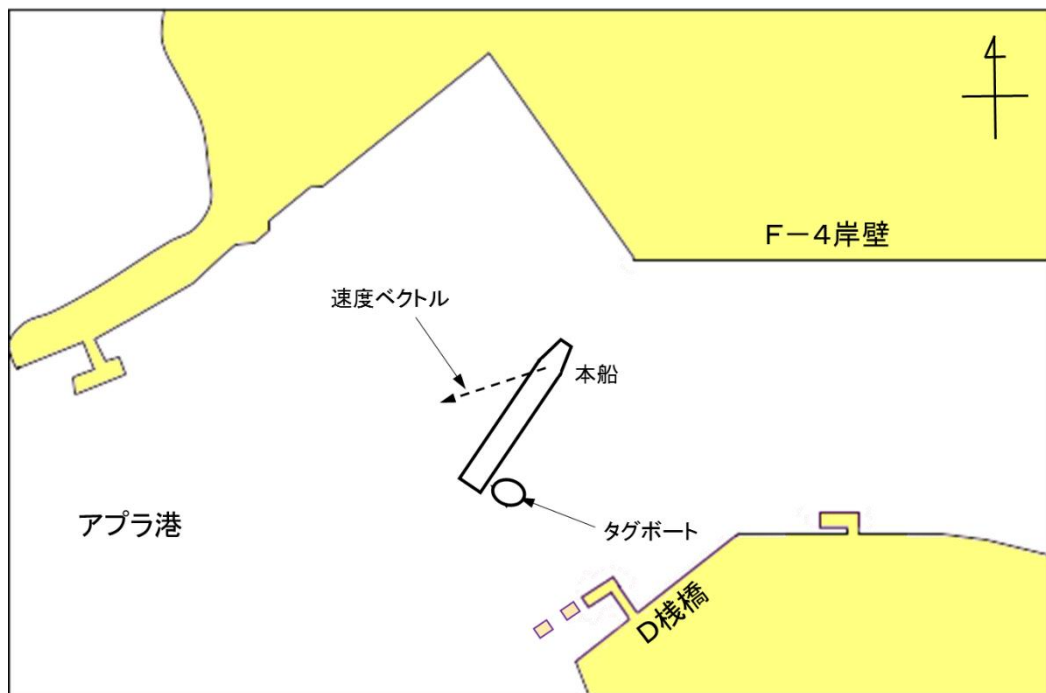
<21時05分ごろ、F-4岸壁を離岸して西方へ後進を開始した。>



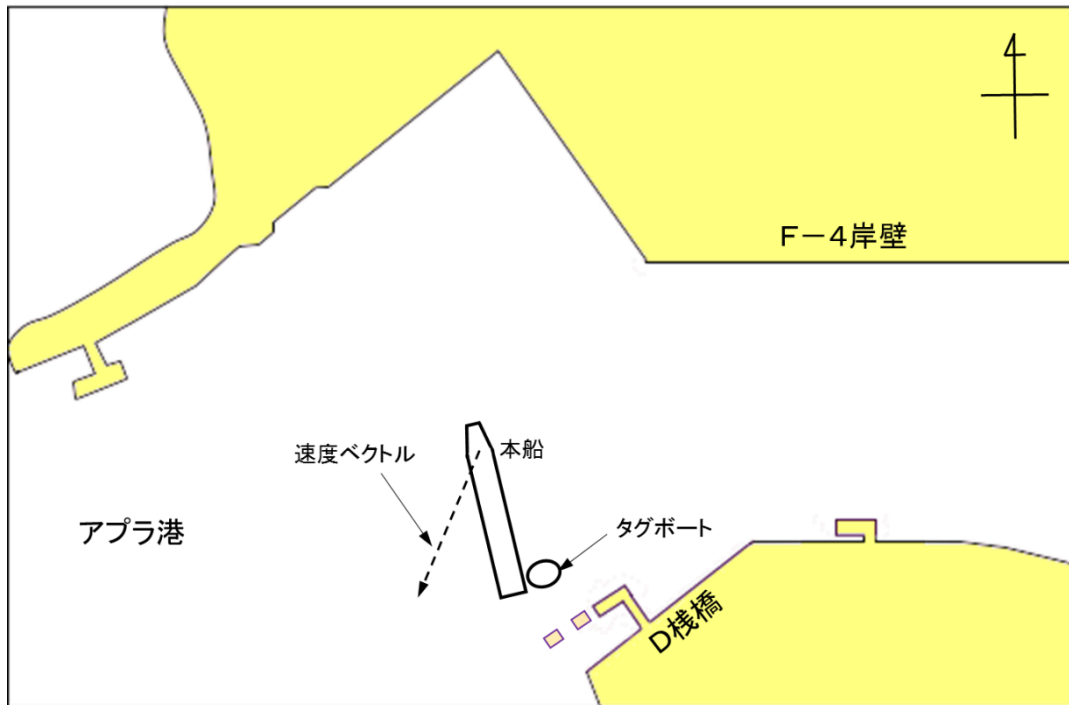
< 21時10分ごろ、いったん両舷推進器を中立として左回頭を開始した。 >



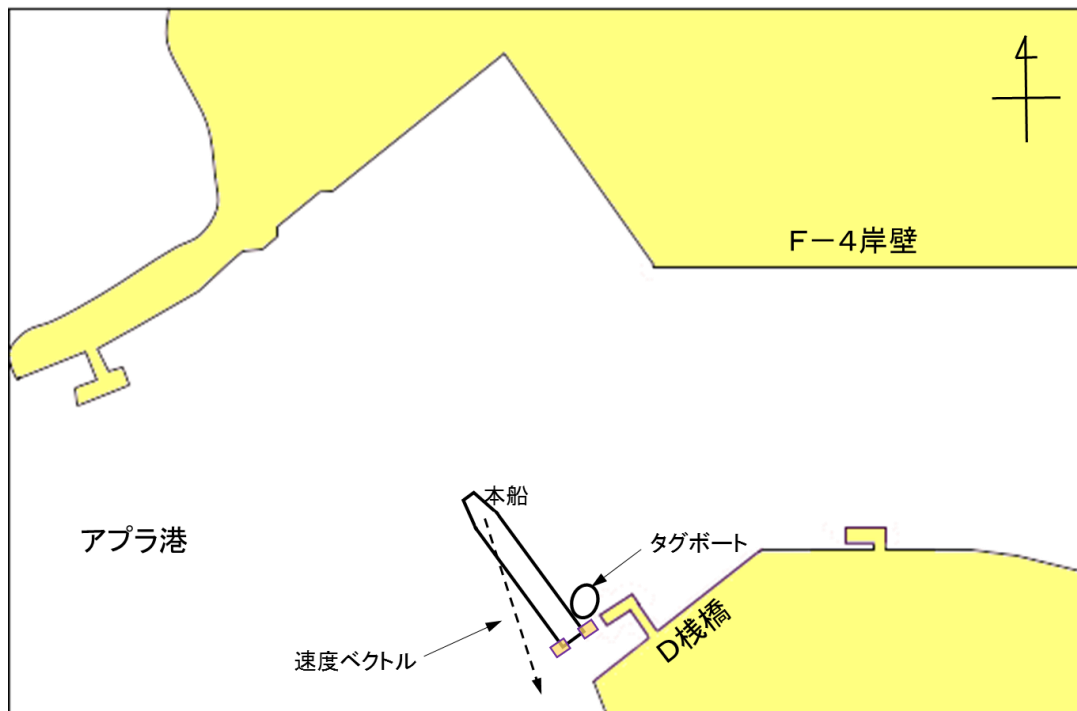
< 21時12分ごろ、左回頭中に推進器が両舷全速後進となった。 >



＜いったん左舷推進器が前進となった後、21時13分ごろに、再び両舷推進器が全速後進となった。＞



＜21時14分ごろ、D 棧橋に船尾から衝突した。＞



8. 今後の調査方針

本資料は、現時点において判明している事実情報を記したものであり、今後、関係者の口述内容と併せて次のことについて分析等を行う。

- (1) 航海情報記録装置に記録された情報の詳細な解析
- (2) 本船の操船状況に関する解析
- (3) 船長のアルコール摂取状況に関する調査分析 等